

上越教育大学大学院

学校教育研究科

教科・領域教育専攻

芸術系コース「美術」

E ducation

Joetsu University of Education Graduate School of Education

Art

Specialized Subject Fields of Education
Music and Fine Arts Education

"Arts"

Painting and Print

Sculpture

Design

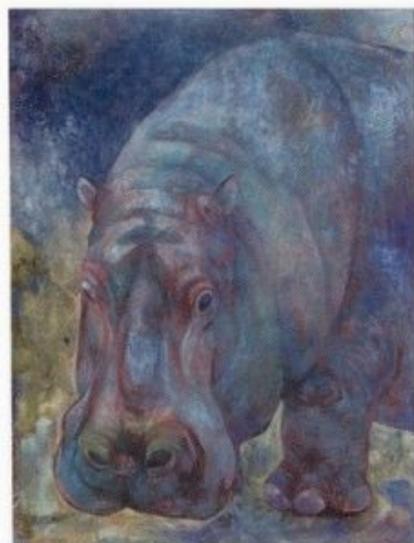
Craft

Theory of Fine Art/History of Art

Art Education

芸術系コース「美術」では、「行為」から学ぶことが大切であると考えます。描く行為、つくる行為、見る行為、伝える行為など様々な活動を通して、表現することの意味や美術教育の可能性を追求します。その研究活動の中で創造的カリキュラムを開発する力や社会的に意味のある美術(アート)の力が生まれ、それらは小・中・高等学校及び大学の教員、デザイナー、学芸員など、様々な進路の選択とその後の活動の核になると考えます。

- 充実した設備のもと、様々な実技や美術に関する理論研究などをダイナミックに連動したかたちで各自の研究を進めてゆきます。
- 理論と実践が関係しあう研究分野のなかから、各自の問題意識に基づく課題を設定し、主体的に研究が進められるよう、個別的、総合的な研究指導を行っています。作品制作を中心課題とした修士論文も作成できます。
- 地域の学校との協力関係により、授業観察や分析を継続的に行うことで、実践的な子ども理解の上にたった図画工作・美術教育を構築しています。



● 絵画 Painting and Print

絵画分野では、油彩画・版画および日本画の制作、材料技法の習得を通じて、実践的な研究を行っています。また、古典技法の研究から、近代・現代絵画の制作など、理論と実技の両面から美術教育との関連を模索しています

● 彫刻 Sculpture

彫刻分野では、モデリング及びカーヴィングによる制作研究や理論的研究を行っています。また実材を用いた制作では、木、石、ブロンズ等の素材や技法の研究に加え、自由な発想のもと造形活動を展開しています。

● デザイン Design

デザイン分野では、視覚伝達デザインを主として、形態や色彩、文字やイラストレーション等の諸要素の研究、デザインのプロセスに関する研究、デザイン教育の基礎的研究等をおこなっています。また、積極的にコンピュータを導入してコミュニケーションの問題も模索しています。

● 工芸 Craft

工芸分野では、木工、陶芸をはじめ、染色、金工、ガラスなど多様な領域から、現代の工芸をめぐる様々な問題について、制作研究、理論的研究に取り組んでいます。さらに、工芸の素材とプロセスからの造形理論や、工作・工芸教育の基礎理論についての研究もおこなわれています。

● 美術理論・美術史 Theory of Fine Art/History of Art

美術理論・美術史分野では、日本美術史、東洋美術史、西洋美術史、芸術学を通して、人はどんな美術を創ってきたかを考えます。作家論、技法論、作品の意味、モチーフに関する研究、芸術と宗教の関わりなどを分析しながら、フィールドワークを取り入れた研究活動から美術鑑賞が実践されています。

● 美術科教育 Art Education

美術科教育分野では、子どもと教育の今日的な課題の解決を視野におき、他分野・領域との連携をはかりつつ、子どもの有能さや論理を重視した教育の再構築を目指し、美術教育の方法、教材開発、授業分析等の演習を中心に、美術教育の実践学的な研究を進めています。また、美術館や地域の施設でのワークショップの開催やボランティア活動等をとおして、生涯教育における美術(造形活動)の指導者を目指します。

伊藤将和
Ito Masakazu
油彩画・版画担当

洞谷亜里佐
Doya Arisa
日本画担当

松尾大介
Matsuo Daisuke
彫刻担当

安部泰
Abe Yasushi
視覚伝達デザイン・
メディアデザイン担当

西村俊夫
Nishimura Toshio
木工芸・
メディアデザイン担当

高石次郎
Takaishi Jiro
陶芸担当

阿部靖子
Abe Yasuko
美術科教育担当

五十嵐史帆
Ikarashi Shiho
美術科教育担当

■研究設備・授業風景など



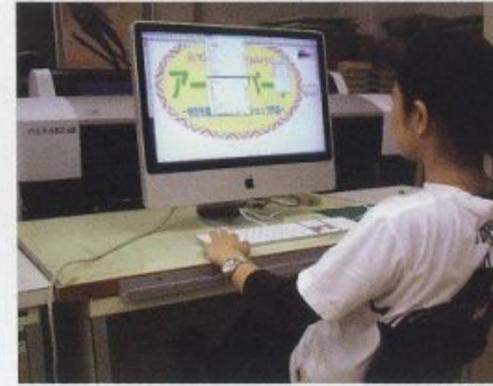
■油彩画室



■版画室



■日本画室



■デザイン室



■陶芸室



■木工室



■専門セミナー(個別指導の様子)



■専門セミナー(铸造の様子)



■実材研究(作品設置の様子)



■人物画研究(講評の様子)



■美術科教育教材開発演習(美術館ワークショップの様子)



■実践場面分析演習II「美術」(教材開発の様子)



■地域での活動(妙高夏の芸術学校)



■地域での活動(新潟県立近代美術館でのワークショップ)



■国際交流展覧会(新竹教育大学・台湾)



■卒業・修了研究展

■美術関連開設科目

芸術系教育に関する主な科目

美術科教育論

美術科教育方法演習

美術科教育教材分析演習

美術科教育教材開発演習

芸術学

西洋美術史特論

日本画研究

人物画研究

油彩画・版画研究

塑造研究Ⅰ

塑造研究Ⅱ

実材研究

視覚デザイン研究

メディアデザイン研究

木工芸研究

陶芸研究

共通科目

実践場面分析演習I「美術」

実践場面分析演習II「美術」

専門セミナー

※絵画・彫刻・デザイン・工芸・

美術科教育の各領域ごとに教育

基礎研究セミナー及び教育応用

研究セミナーを開設。

■修了生から

佐藤賢司 (平成5年度修了)
大阪教育大学 准教授

大学院芸術系コース「美術」で“学べること”はたくさんありすぎて、一言で言うのは難しいのですが、“どのようなかたちで学べるのか”については一つの言い方が出来ると思います。それは、“広がりを持ったまとまり”としての教員組織の指導のもと、多様な経歴の大学院生が協働的に知を生産するというかたちです。ゼミ指導教員のもとでの個人的な研究に、教員組織の指導のもとでの研究会や学外活動等が加わることで、狭い分野を越えた“総体としての美術教育”を志向できること。それが「美術」の特徴であり、魅力だと思います。

安藤郁子 (平成5年度修了)
陶芸作家・秋田公立美術工芸短期大学 助教

大学院での2年間、充実した制作設備の下で陶芸制作に熱中した日々を過ごしました。信頼できる指導教員や多くの仲間に支えられ、多様な専門領域の講義で吸収したことは、今の私の大きな基盤になっていると実感しています。特に、美術教育領域について学ぶ中で、人が生きることの根源を考えることができたことは、現在作家活動をする上での大きな糧となっています。

四ツ目理恵 (平成19年度修了)
東京都小学校図画工作専科 教諭

私は「免許プログラム制度」を活用して、様々なことを上教大で学びました。特に深い思い出は、学部生と大学院生が同じ授業を受講し、お互いの意見や感想を直に言い合えたという環境です。また、学内の施設がとても充実しており、“かゆいところに手が届いた!”という経験を何度もすることができました。こういった体験を通し、自分の考えだけに留まらず、広く世界を見る視点を学ぶことができました。

今口和音 (平成22年度修了)
小林古径記念美術館 学芸員 (非常勤)

大学院を例えるならば、人との密な関係性を築ける場であったと思います。先生や他領域にわたる友人、国を超えた他大学の学生、地域のイベント参加で出会った人との密な結びつきが、自分に新たな視点や思いがけないヒントを与えてくれました。現在は、美術館で教育普及活動に携わる仕事についています。大学院で築いたつながりが仕事をする上で非常に役立っています。人とのつながりというものの大切さを改めて感じる毎日です。

■近年の修士論文の一例

図画工作科・美術科における言語活動に充実に関する一考察
—「対話による造形教育」の授業デザインと実践を通して—

中学校美術におけるピカソ作品の鑑賞についての考察

デジタルコンテンツを活用した鑑賞教育についての研究

木工教材研究 —手工関連文献・木工教材見本の分析と造形素材論を軸として—

「障害」のある人のアートについての研究

—「自閉症児」の並べる行為の事例を養護学校での研究授業実践から—

『北斎漫画』の人物表現について

リアリズム絵画における創造性が果たす役割

—自身の制作を通しての一考察—

ツール・ド・フランスにおける写真表現の可能性

宮崎駿監督作品のアニメーション映画におけるキャラクターの特性について
—現実と空想の相互関係—

馬をモチーフとした彫刻の研究

彫刻シンポジウムと地域のかかわりについて

モンゴル族の色彩及び色彩構成に関する研究



●教育職員免許取得プログラム

通常の学生2年分の授業料を3年間で分割納入することになります

このプログラムは、本学大学院(修士課程)の各専攻・コースの入学で、小学校、中学校、高等学校又は幼稚園の教員免許を持っていない方のうち、教職に対して意欲の高い方を対象とし、3年間で大学院(修士課程)の教育課程と学部の教育課程を履修するものです。よって学部の教員養成カリキュラムを履修し単位を修得することにより、教育職員免許取得の所要資格を得ることが出来るものです。大学院の入学選抜試験を受け合格した方で、教育職員免許取得プログラムを希望(申請)し、許可された方がこのプログラムの対象となります(学校教育専攻臨床心理学コースの志望者は申請できません)。なお、学部の保育士、学芸員、社会教育主事及び学校図書館司書教諭の資格取得に係る授業科目については、科目等履修生となれば履修可能です。

●長期履修学生制度

通常の学生2年分の授業料を3年間で分割納入することになります

この制度は、大学院(修士課程)の標準修業年限2年を超えた一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを認める制度です。大学院の入学選抜試験を受け合格した方で、長期履修学生制度を希望(申請)し、許可された方がこの制度の対象となります。

長期履修を申請できる方は、本学大学院(修士課程)の各専攻・コースの出願者のうち、職業を有しているなどの事情により、標準修業年限(2年)を超えて3年間の期間にわたり、計画的に教育課程を履修し、修了することを志望する方です。

授業料は、大学が定めた授業料年額 × 標準修業年限(2年) ÷ 長期履修期間(3年)です。

●大学院修学休業制度を利用して 大学院へ入学を希望される現職教員の方へ

本学は、平成21年度から、教育公務員特例法に基づく「大学院修学休業制度」を利用して本学大学院に入学された現職教員の方に対し、授業料の全額又は半額を免除する制度を導入します。

※上記についてのお問い合わせ先

上越教育大学入試課

tel.025-521-3293/fax.025-521-3295

URL.<http://www.juen.ac.jp/>

芸術系コース「美術」ホームページ

URL.<http://www.juen.ac.jp/art/art.html>